

第157回（令和3年 第1・第2四半期）
エイズ動向委員会 委員長コメント

【概要】

1. 今回の報告期間は、以下の約半年間
 - 令和3年第1四半期…令和2年12月28日～令和3年3月28日
(以下A、前年同時期を α とする)
 - 令和3年第2四半期…令和3年3月29日～令和3年6月27日
(以下B、前年同時期を β とする)
2. 新規HIV感染者報告数は(A)154件及び(B)195件 ((α)181件及び(β)164件)
3. 新規AIDS患者報告数は(A)76件及び(B)74件 ((α)60件及び(β)94件)
4. HIV感染者とAIDS患者を合わせた新規報告数は(A)230件及び(B)269件

【感染経路・年齢等の動向】

1. 新規HIV感染者：
 - 同性間性的接触によるものが(A)115件及び(B)141件
(新規HIV感染者報告数の(A)約75%及び(B)約72%)
 - 異性間性的接触によるものが(A)19件及び(B)19件
(新規HIV感染者報告数の(A)約12%及び(B)約10%)
そのうち(A)は男性13件、女性6件 (B)は男性17件、女性2件
 - 静注薬物によるものは(A), (B)共に0件
 - 母子感染によるものは(A), (B)共に0件
 - 年齢別では、特に20～40歳代が多い。
2. 新規AIDS患者：
 - 同性間性的接触によるものが(A)33件及び(B)32件
(新規AIDS患者報告数の(A)約43%及び(B)約43%)
 - 異性間性的接触によるものが(A)13件及び(B)16件
(新規AIDS患者報告数の(A)約17%及び(B)約22%)
そのうち(A)は男性11件、女性2件 (B)は男性14件、女性2件
 - 静注薬物によるものは(A)1件及び(B)0件
 - 母子感染によるものは(A), (B)共に0件
 - 年齢別では、特に30～50歳代が多い。
 - AIDS患者報告数の累計が1万件を超えた。

【検査・相談件数の概況（令和3年1月～6月）】

1. 保健所におけるHIV抗体検査件数は(A)7,669件及び(B)7,786件
(前年同時期確定値(α)20,417件及び(β)6,616件)
自治体を実施する保健所以外の検査件数は(A)5,018件及び(B)5,905件
(前年同時期確定値(α)6,933件及び(β)3,327件)
2. 保健所等における相談件数は(A)12,359件及び(B)13,572件
(前年同時期確定値(α)25,136件及び(β)11,811件)

【献血の概況（令和3年1月～6月）】

1. 献血件数（速報値）は、2,533,663件（前年同時期2,478,131件）
2. そのうちH I V抗体・核酸増幅検査陽性件数（速報値）は18件（前々同時期19件、前年同時期26件）
10万件当たりの陽性件数（速報値）は、0.710件（前年同時期1.049件）

《まとめ》

1. 今回報告された新規H I V感染者報告数は、前年同時期に比べ、第1四半期は減少したが、第2四半期は増加した。新規A I D S患者報告数については、前年同時期に比べ、第1四半期は増加したが、第2四半期は減少した。
2. これまでと同様の傾向ではあるが、今回の新規H I V感染者は20～40代、新規A I D S患者は30～50代の報告数が多い。また、10歳代から70歳代までの新規H I V感染者が報告されており、幅広い年齢層の報告がある。
3. 保健所等におけるH I V抗体検査件数は、前年同時期に比べ、第1四半期（-54%）と減少し、第2四半期（+38%）が増加した。また、前々年同時期に比べ、第1四半期（-66%）、第2四半期（-62%）は共に減少した。保健所等における相談件数については前年同時期に比べ、第1四半期は減少し、第2四半期は増加した。
4. 早期発見は、個人においては早期治療、社会においては感染の拡大防止に結びつくことから、今後も保健所等における無料・匿名のH I V抗体検査及び相談を積極的に利用していただきたい。

《令和2年 HIV感染者・AIDS患者の年間新規報告数（確定値）》

【概要】

1. 今回の報告期間は、令和2年の約1年間
2. 新規HIV感染者報告数は、750件（過去20年間で、17番目の報告数）
3. 新規AIDS患者報告数は、345件（過去20年間で、17番目の報告数）
4. HIV感染者とAIDS患者を合わせた新規報告数は1,095件（過去20年間で、16番目の報告数）

【感染経路・年齢等の動向（確定値）】

1. 新規HIV感染者：
 - 同性間性的接触によるものが543件（全HIV感染者報告数の約72%）
 - 異性間性的接触によるものが96件（全HIV感染者報告数の約12%）
 - 静注薬物によるものは5件
 - 母子感染によるものは1件
 - 年齢別では、特に20～40歳代が多い。
2. 新規AIDS患者：
 - 同性間性的接触によるものが190件（全AIDS患者報告数の約55%）
 - 異性間性的接触によるものが57件（全AIDS患者報告数の約16%）
 - 静注薬物によるものは3件
 - 母子感染によるものは0件
 - 年齢別では、特に30～50歳代が多い。

【検査・相談件数の概況（令和2年1月～12月）】

1. 保健所等におけるHIV抗体検査件数（確定値）は68,998件（過去20年間で、19番目の件数）
2. 保健所等における相談件数（確定値）は66,519件（過去20年間で、20番目の件数）

《まとめ》

1. 令和2年の新規HIV感染者報告数は、令和元年より減少しており、4年連続での減少となった。
2. 新規HIV感染者及び新規AIDS患者報告の感染経路は、性的接触によるものが8割以上で、男性同性間性的接触によるものが多い。
3. 献血における10万件当たりの陽性件数は令和元年と比べて増加した。その原因は現時点では定かではなく、血液製剤によるHIV感染を防ぐため、HIV感染症が疑われる場合、国民の皆様には保健所等での無料・匿名検査を利用いただきたい。
4. 新規報告数全体に占めるAIDS患者報告数の割合は、新規HIV感染者報告数の減少及びAIDS患者報告の増加により、4年ぶりに増加しており、新型コロナウイルス感染症の保健所及び医療機関の受診控えの影響による変化等も含めて今後注視していく必要がある。自治体におかれては、エイズ予防指針を踏まえ、利便性に配慮したHIV検査相談体制を推進していただきたい。
5. HIV感染症は予防が可能な感染症である。HIVに感染していない者においては、適切な予防策をとること、HIVに感染した者においては、まずは自分の感染を知ることが、個人においては早期治療に、社会においては感染の拡大防止に結びつくため、重要となる。国民の皆様には、梅毒などの性感染症を含め、保健所等での無料・匿名の相談や検査や医療機関による検査を積極的に利用いただきたい。